



TITLE:

本多利明ノ著書二就テ

AUTHOR(S):

本庄, 榮治郎

CITATION:

本庄, 榮治郎. 本多利明ノ著書二就テ. 經濟論叢 1915, 1(4): 626-630

ISSUE DATE:

1915

URL:

<https://doi.org/10.14989/126903>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第四號

第一卷

論說

● 收益と生産費との關係

● 專賣と戰後財政

● 經濟學認識論ノ若干問題(三、完)

雜錄

● 危險分散主義ノ原則

● 經濟主義ニ就テ

● 英吉利ノ農政問題(二、完)

● 享保年間ノ米價調節(三、完)

雜報

● 經濟的進化と人口法則(二)

● 戰爭利得稅新案

● 獨逸帝國全體ニ亘ル半官企業組織新說

● 英國ノ戰費と經濟

● 獨逸ノ植民の運動ノ回想

● 相續稅と家族制度

● 本多利明ノ著書ニ就テ

● こんらゝ教授逝ク

法學博士 河上 肇

法學博士 小川郷太郎

商學士 左右田喜一郎

法學博士 神戸 正雄

法學博士 戸田 海市

助教授 河田 嗣郎

法學士 本庄榮治郎

講師 米田庄太郎

法學博士 小川郷太郎

法學博士 神戸 正雄

助教授 河田 嗣郎

助教授 山本美越乃

法學博士 神戸 正雄

法學士 本庄榮治郎

助教授 河田 嗣郎

本多利明ノ著書ニ就テ

法學士 本庄榮治郎

魯鈍齋本多利明カ關考和ノ筭蓑ヲ傳ヘタル有數ノ數學者ニシテ又天文學ニ通シ航海ノ術ニ達セシコトハ世人ノ熟知スル所ナルガ、密ニ之レノミニ止ラズ、ソノ經濟思想ガ嶄然時流ヲ抜キ彼ヲ以テ徳川時代經濟學者中最モ傑出セル一人トシテ數フルノ不可ナキコトハ既ニ余ノ論シタル所ニシテ(本誌第一卷第一號所載拙稿「日本經濟叢書第十二卷ヲ讀ム」參照)利明ノ名ハ單ニ日本數學史上ノミナラス日本經濟學史上ニ於テモ逸ス可ラサル所也。然ルニ利明ノ傳、世ニ傳ヘラルル所詳ナラズ、僅カニ本多利明先生行狀記(宇野保定述)、大日本數學史(遠藤利貞著)、記憶スヘキ關流ノ數學家(狩野季古博士講義、本朝數學通俗講演集所收)等アリテソノ一斑ヲ知ルノミ。又ソノ經濟上ノ著書ノ如キ廣ク傳ハルル所ナク僅カニ經世秘策ト西域物語トガ日本經濟叢書ニ收容セラレタルニ止マル。余之ヲ遺憾トシ七八月ノ交東上シテ大藏省、內閣文庫、東京帝國大學圖書館、帝國

學士院其他二三圖書館ヲ歴訪シ、或ハソノ目錄ヲ檢シ或ハ書庫ニ入リ以テソノ著ヲ蒐集シ閱覽スルニ及ンテ、ソノ著書ノ今ニ存スルモノ少カラザルヲ知リ、曩日ノ世評ハ從來ノ學者カ米タコノ方面ニ十分ナル努力詮索ヲナサザリシ結果タルコトヲ覺レリ。サレバココニ日本經濟叢書收容本ノ外ニ利明ノ著書ノ尙他ニ多ク存スルコトヲ報道スルハ必スシモ無用ノ業ニ非ル可シ。

(一)四大急務ニ關スル上書。利明ノ所謂四大急務トハ第一船政、第二鑛金、第三船舶、第四屬島ノ開發ノ四者是也。コノコトハ經世秘策ニモ見ユル所ナルガ、今回更ニコレニ關スル上書アルコトヲ發見セリ。而シテ東京大學藏本ニハ第一、第二、第三ノ三條ハ詳細ニ記述セラレアルモ第四開業ノコトニツイテハソノ内容ヲ省略セルニ反シ、大藏省藏本(大日本通商史書類)ニハ第四ニツイテモ詳細ナル記載アルノミナラス人口ノ増殖ヲ計ルタメニ貧民懷孕ノ婦女ニ對シ施米ヲナスヘキコトヲ附說セリ。而シテ右大藏省本ハ河尻氏上書本多利明上書高橋景保上書ノ三者ヲ合綴シ

テ河本高根夷上書ト題シ、奥書ニハ「右本多氏高橋氏上書二通以兩人自書騰寫并一枚畢」云々とアレハ信據スルニ足ルモノナラン。

(二)蝦夷開發ニ關スル上書。東京大學藏本ニシテ寛政四年七月ノ上書ナリ。尤利明ノ名ヲ明記セスト雖文中青島俊造、最上德内等トノ關係ヲ叙フル點ヨリ見ルモ、又ソノ上書ノ趣意内容ヨリ見ルモ利明ノ上書ナルコト疑ナキ所トス。

(註)内田博士ガ「島嶼交通ノ生涯及其ノ著書」(史學研究會講演集第三冊所收)ニ引用セラレタル寛政三年十月ノ本多利明ノ上書ハ、右ニ述ヘタル蝦夷開發ニ關スル上書ト同一ノモノナルガ如ク、引用セラレタル部分ニ就テ檢スルニ二三字句ノ増減アルノミニテ全ク同一ノモノナリ。

(三)亦人日本國ヘ漂着スルニ擬ヘ近年繁々渡來スルニ謂アル事利明愚存之趣意。本書ハ寛政三年正月ノ著ニシテ前半部ニ於テハ魯船來航ノ事ハ實ハ漂着ニ非ス、交易ノ途ヲ開カンカ爲メニ來レルモノニシテ、ソノ船舶載貨等蘭船ト異ルナキヲ說キ、更ニ進ンテかむさすかノ狀況、魯齊亞ノ國情ニ及ヘリ、後半部ハ之ニ對スル我國ノ政策ヲ說ケルモノニシテ日露貿易ノ實現ヲ

從源シ蝦夷開發ノ急務ナルコトヲ方説セリ。
(大日本通商史類編 百七十一冊所收) 本書ハ嘗テ内田博士ノ厚意ニヨリ一覽スルコトヲ得タル『蝦夷土地開發懸存ノ大概』(東京地學協會本)ト同一ノモノ也。

(四) 自然治道之辨。同一書名ノ下ニ異レル内容ヲ有スルモノニアリ。別ニ上下前後ノ區別ナシト雖、一ヲ以テ前編トシ他ヲ後編ト見テ不可ナカル可シ。所謂前編ニハ先ツ人オノ登用ヲ説キ農業ノ道ヲ以テ國政ノ根本トシ更ニ士商兩階級ノ關係ニ及ヒ又運送交易ノ必要ヲ説ケリ。文中『三病半愈策』村長教訓等ノ著アルコトヲ示セルモ未タ其書ヲ見ルヲ得ザリキ。次ニ所謂後篇ニハ四大急務ヲ説ケルコト經世秘策前編及補遺ト同シト雖ソノ文章内容ヤ々異レリ第四ノ島島ノ開業ニ就テ特ニ然リトス。而シテソノ奥書ニハ寛政七乙卯年正月吉辰東都處士本田三郎右衛門利明ト記セリ。尤原本ニハ非ス。(大日本通商史類編 百七十一冊所收。東京大學ニモ寫本アリ)

(五) 蝦夷道知邊。寛政十三年正月ノ序アリ。産業ノ開發ヲ以テ國君ノ天職トシ、而シテコノ

開發ニ努ムル爲ニハ渡海ノ法ヲ具備スルヲ緊要ナリトシ、蝦夷開發ノ急務ヲ説キ移民ノコトニ及ヒ、土民撫育ノ必要ヲ説ケリ。(大日本通商史類編 百六十九冊所收。東京大學藏書記)

(六) 贅説。先ツ小引ヲ載セ次ニ本論ニ入ル。人民ノ撫育、渡海術ノ發達、貿易ノ必要ヲ論スルノ外、かむさすかノ開發ニ及ヒ、更ニ南洋ノ諸略ヲ説ケリ。ソノ一節ニ曰ク、江戸ヨリ實羽ニ當リ渡海凡百八十里ニシテまるしやト云島有六島二北極高三十八度奥州仙臺邊ノ氣候ト等シ。土地ノ幅員四國九州程モアルベシトイヘリ。土人多シト雖トモ蝦夷ノ土人ト等シクイマタ人ノ道ヲ得サル土人ナリトイヘリ。此島殊ニ近ク我國ヘ屬スヘキ島ナリ。然ルニ我國ニ打船置タル故ニヤ是モ歐羅巴ノ内すばんゑんと云國ヨリ渡來リ處々ニ交易館ヲ建立シテ土人撫育ノ交易スルトイヘリ云々。南洋諸島カ目下軍事的占領中ナルニ想到セハコノ一節必スシモ興味ナキニ非ス。(大日本通商史類編 百七十一冊所收。東京大學ニモ寫本アリ。前記通商史一六九冊ニ蝦夷道知邊ノ後ニ贅説ナ抄録附載セリ)

尙發説小引ニヨレハ『萬國州縣地名記』ナル著ア

ル由ナリ。

(七) 經濟總論。先ツ澤山、祖德二氏ノ説ヲ批評シテ曰ク「同シ土地ヨリ出產スル產物ヲ用テ遣取シ利益アル事ヲノミ分テ様々ト情狀ヲ世話スル仕方ノ善惡ヲ討論スル迄ナリ。ナル程其如クセハ隨分宜ク、惡クハアル」シク然レ共元來際限アル土地ヨリ出產スル產物ヲ用テ際限ナク増殖スル萬民ノ衣食住ノ用ニ達シ續有餘アラシメントスルノ計策ノ外ナシ、是無理ナリ」トシ「今更日本ノ土地限リノ遺操リ經濟ハ連モ埒明ヘキニアラス」トテ外國貿易ノ必要ヲ痛感セリ(大日本通商史書類第二冊。前シテ大藏省本ニテハ所收東京大學ニモ一本アリ)。而シテ大藏省本ニテハ經濟總論ト發説トヲ合セテ、本トシソノ奥書ニ「右本印利明所著之經濟放言以岡山誠齋之藏本繕寫之。原本則利明所自書分爲二卷今合爲一本以便覽云」云々トイヘリ。

(八) 國府種德氏舊藏五兵衛(明治三十年皇太子登)ニハ利明ノ著書トシテ野人獨語ナルモノヲ綴ケタリ。大日本通商史書類第二冊ニハ發説、經濟總論ノ外ニ野人獨語ヲ載セタリ。ソノ内容ハ杉田玄白ノ著トシテ知ラレル野人獨語(通稱發言第四編所載)ト殆ト同一ノモノナリ。而シテ右三編ヲ合ストセル

要紙ニハ野人獨語ト發説小引トヲ二行ニ書記シ發説小引ノ冠字トシテ本多利明ノ四字ヲ小書セリ。思フニコレ等ノ所ヨリシテ野人獨語ヲ利明ノ著トシテ綴録スルニ至リシモノナラシカ。東京帝國大學本ニハ發説經濟總論ノ二編ノ奥書シソノ附録トシテ野人獨語ヲ合載セリ。

(九) 長崎論。享和元年(西曆一八一四年)八月朔日利明カ東蝦夷根諸ヨリ歸帆ノ途奥州宮古港ニ碇泊セルトキ書セル書ノ奥書アリ。余ノ閱覽シタルハ帝國學士院ノ藏本ニシテ文學博士野野宮氏所藏ノ利明自筆本ヨリ模寫セルモノナリトイフ。ソノ内容ハ船舶ノ國家ニ長體タル以所ノコト、當時ノ船舶難船使船スヘキ次第ノコト、新法渡海ニ難船被船ノ災害ナキ次第ノコト、測量道具ノ大槓、武家ト農民ハ船對ニナリ商賈ノミ興隆雲宮出來ヘキ道理アルコト等ヲ論セリ。

(一〇) 渡海日記。享和元年五月八日ヨリ十月九日迄ニ利明カ屏州船時ニ東蝦夷處廻航行シタル日記ナリ。長體總ト同シク野野宮博士所藏ノ利明自筆本ニヨリ學士院ノ寫セルモノナリ。

(一一) 本山長發論。蝦夷地論。内閣文庫藏本ニシテ卷頭ニハ利明ヨリ立原甚五郎(筆名)ニ宛テタル書體ヲ載セ、利明カ最上徳内ヲシテ已ニ代

リテ蝦夷ニ赴カシメタルコトヲ記シ(寛政元年十一月)更ニ蝦夷土地開發成就シテ良國ト可成事其他ノ點ニツキ利明ノ論シタルモノナリ。

(註)單ニ蝦夷拾遺ト題スルモノアリ(東京大學藏本)コレハ天明五年山口、荏原、佐藤、菅川、青島等が蝦夷巡見ノ後、其地ノ情況ヲ記セルモノニシテ、ココニイフ蝦夷拾遺トハ全然別異ノモノ也。

(一)渡海新法。内閣文庫藏本ニシテ航海技術ニ關スルコトヲ記セリ。タダ「船舶ハ國家ニ長器タル所以ノコト」ノ一條ハ經濟思想上關係スル所アリトイフベシ。

(二)古蝦夷全圖。全圖ノ一隅ニ「經緯度數之辨」アリテソノ終リニ「寛政二年庚戌季秋下弦、本田三郎右衛門利明撰」トアリ。恐ラクハ利明ノ圖セルモノヲ更ニ模寫セルモノナル可シ。内閣文庫ニ藏スル所也。

(備考)前掲「錢屋五兵衛」ノ中ニハ利明ノ著書トシテ「沿海異聞」ヲ擧ゲタリ。大藏省藏本(舊幕府理財會要書類)ニ沿海異聞ナル書アリ。スヘテ五卷ヨリ成リ各卷數篇ノ論說記事ヲ收ム而モ利明ノ著書ト見ルヘキモノナシ。タダ卷二ニ收ムル「赤蝦夷考風説書」ハ最上徳内ノ著ニシテ利明ノ附註セルコトヲ示シ、内閣文庫藏本「赤蝦夷風説考」(蝦夷風土記所收)ハ同一内容ノ書ニシテ「最上徳内常矩著本田三郎右衛門利明訂」ト明記

シアリ。コレ或ハ沿海異聞ヲ以テ利明ノ著トセル謬因ニアラサルナキ乎、或ハ同名ノ別本存スル乎。尙右「赤蝦夷風説考」ハ工藤球郷ノ著ナルコト河野常吉氏ノ詳論セル處ナリ(史學雜誌二六卷五號)。但、氏ノ論ニヨレハ同書ハ天明三癸卯年正月ニ脱稿完成シタル由ナルモ、内閣文庫本ニハ天明八戊申年春正月ト記シ書中ニ天明六丙午年春三月下旬ノ記事アルヨリ考フレハ所謂工藤球郷ノ著赤蝦夷風説考ト余ノ通覽シタル赤蝦夷風説考トハ或ハ別異ノ書ナルヤモ知ル可ラス。暫ク記シテ後考ヲ待ツ。

尙「錢屋五兵衛」ニハ「蝦夷風俗人情之沙汰」ヲ利明ノ著トシテ擧ゲタルモ同書ハ最上徳内ノ著トイフヲ適當トス。尙前掲「馬場正道ノ生涯及其ノ著書」二〇二頁ヲ參照スヘシ。

序ナカラ「言スヘキハ前掲内閣本「蝦夷風土記」トイフハ赤蝦夷風説考外三篇ヲ合綴セル書ノ假名ニシテ攝津新山實ノ「蝦夷風土記」トハ全然別異ノ書ナリ。

以上説ク所ノ利明ノ經濟上ノ著書ハソノ内容ニ於テ經世秘策西域物語ト著シク異レルモノ多カラスト雖、右二書ノ外ニ經濟上ノ著書ノ存スルコトハ以上説ク所ノ如シ。尙航海天文曆數ニ關スルモノモ二三之ヲ通關シタルモ今ハ之ヲ措ク、以上ノ外ニ尙利明ノ經濟說ヲ窺フニ足ルヘキ著書アルヘク、若シ讀者ニシテ這間ノ事情ヲ知ラルルアラハ幸ニ教示アランコトヲ望ム。